

『小学校部会』

1 研究主題

「ともに学び合い、高め合う児童生徒の育成を図る体育学習」
ー教師と児童が安心して行うことのできる体育の授業を考えるー

2 はじめに

近年、新任や少経験者の教員などが増えてきた。また、体育が専門でない教員も多くいる。そのため、体育の授業を進めるにあたり安全面への不安や、指導内容のアイデアの不足などが課題となっている。安全に、効率的、効果的に行えるような授業のアイデアを共有し、実践することで、少しでも体育好きの児童が増えるような授業が展開できるのではないかと考えた。

3 研究経過

低学年・中学年・高学年2グループの計4グループに分かれて実践・研修を行い、それぞれの指導方法をアイデアシートという形式でまとめ、資料作成を進めた（図1）。

4 研究の概要

（1）低学年

- ・ 走、跳の運動遊び
- ・ ボールゲーム

（2）中学年

- ・ ソフトバレーボール
- ・ タグラグビー
- ・ ティーボール
- ・ 体づくり運動

（3）高学年

- ・ ベースボール型
- ・ マット運動
- ・ 水泳
- ・ 表現運動

★ 交換箱→29 教育研究会→学校体育教育研究会→R6→小学校アイデアシート

5 今後の課題

今年度は、学年ごと分かれてアイデアシートを作成したが、他学年とのつながりを意識した指導といった観点については検討の余地がある。また、アイデアシートをより活用しやすくするために、資料を整理しつつ、随時更新・追加していくとともに、全体で共有していく。今後も小学校6年間、さらには、義務教育9年間を見据えた体育授業のあり方を探求していく。

図1 アイデアシート

<対象学年>	低学年
<単元名>	走・跳の運動遊び [跳の運動遊び]
<ゲーム名>	ケンパー跳びリレー
<中心的なおもしろさ>	・ 前や上へ跳けて跳ぶ ・ 跳び方の工夫
<行い方・ルール>	① 1チーム7人程度（クラスを4チームくらいに分ける） ② 最初は全チーム同じリズムで跳ぶコースを作る （ケン・ケン・バ・ケン・バ・ケン・バ・ケン・ケン・バ） ③ コースを走りきったらコーンでリターンして走って戻り、次の人にバトンを渡す ④ 全員が走り終わるまでの速さを競う
<ジャンプの課題>	各チームで、跳ぶリズムを変えて再度競走をする。 どのリズムが跳びやすく、速く跳べるリズムかを考えさせる。 コースを作ったら試したり、他のチームのコースを試したりして、様々な跳び方に挑戦させる。
<場づくり>	
<学び>	・ リズムによって跳びやすさと跳びにくさがあることに気付かせる。 ・ リズムに合わせて仲間が手拍子をしたり、自分でリズムをとりながら跳ぶと跳びやすいことに気付かせる。 ・ テンポよく跳ぶ楽しさを味わわせる。
<東西中の児童の様子>	
<その他>	導入で使えるもの ・ 言うこと一緒にやること一緒に ・ 言うこと一緒にやること逆

『中学校部会』

1 研究主題

「ともに学び合い、高め合う児童生徒の育成を図る体育学習」
—仲間との関わりのなかで、自ら課題解決に向けた取り組みができる生徒の育成—

2 はじめに

現在の子どもたちの特徴として、習得した知識・技能を上手く活用できない・伝えられない、運動の二極化傾向、体力低下などがある。体育の授業においても、子どもたちの現状に応じて様々な指導方法や教具の工夫が進んでいる。保健体育科の教員で、教具・教材の工夫などについて情報を共有することで、安全に効果的な授業が展開できるのではないかと考えた。

3 研究経過

新しい教材や安全面での指導が不安な教材について、指導経験がある教員や専門種目で行っていた教員が指導者となり授業実践形式で研究を行った。

4 研究の概要（資料１）

（１）アルティメット【ゴール型】

フライングディスクの基本的な操作やゲーム展開について学んだ。また、フライングディスクからボールに変更することで、操作性を上げ、空間を作り出す動きをしやすくするなどの工夫についても学んだ。

（２）プレルボール【ネット型】

仲間と連携する動きやスペースを狙うボール操作が必要となることを学んだ。また、コートの大きさやキャッチを入れるなどルールを工夫することで、各学年、支援学級でも実践できる教材であると学んだ。

（３）剣道・柔道【武道】

柔道では、安全に授業を行うために、受け身の指導方法や２人１組での指導方法を学んだ。

剣道では、武道を指導する上で大切にしている礼儀や、新聞紙を使った指導方法の工夫について学んだ。

5 今後の課題

今年度の実践を各校で指導する中で、さらに検討、改善を繰り返し、より生徒の実態に適した指導が行えるように研究を続けていく。また、今年度の活動では扱えなかった現場での不安や困りごとなどについては、次年度以降で検討していく。愛知県は新体力テストの結果が全国的に見ても低いことから、体力向上に向けても年間を通じて計画的に指導ができるようにしていく。

資料１ 各実践の様子

